

わくわくしよう！

令和7年度星ヶ丘小学校 学校経営方針

校長 隼田 靖宏

1 わくわくしよう！

先生は、未来を担う子どもに関わることのできる、言わば未来を創ることのできる本当に素敵な仕事です。

星ヶ丘小学校職員、皆で力を合わせて、「わくわく」しながら仕事をしましょう。

教職員が、「わくわく」しながら教育に携わると、きっと子どもも学校に来ることが待ち遠しく、「わくわく」します。

いつも「わくわく」しているような子どもに育てたいです。

2 「わくわく」するための本年度の柱

- (1) 教職員 1 人 1 人の力量アップ
 - ・ 器を大きく！どこに異動しても頼りにされる力を身につけましょう。
- (2) 子どもも学校経営に参画
 - ・ こどもまんなか 国、市の合言葉です。
- (3) コミュニティスクール
 - ・ 星ヶ丘小の強みである地域を最大限に生かした取組

2 本年度の柱

(1)教職員 1 人 1 人の力量アップについて

- ・ 個の力量アップこそが、業務改善、学校力の向上です。
- ・ 前進は、最初はきついです。しかし、力を借りながらも前進する経験をしていくことで、前回よりも今回はよりスムーズに、効率的にことを行えます。それが私たちの成長です。一人の成長は学校組織の前進です。
- ・ plantが導入されています。10年後の自分を想定して、適切に目標を設定し、どうせやるなら効果的に活用しましょう。

※ 授業の始まりを意識しましょう

- 1 学習用具を準備する
- 2 チャイムできちんと始まる（座って待つ）
- 3 担任の授業準備を手伝うことができる
- 4 担任をしっかり見て、指示をまつ
- 5 担任の話をしっかり聞ける

※ この始まるまでの時間が短いほど効果的な学習となります。

2 本年度の柱

(2) 子どもも学校経営に参画について

- 令和6年度教育大綱では
～「こどもまんなか」で、質の高い教育環境の充実を～がうたわれています。
- こどもの意見・多様性を尊重しましょう。
- 結果よりプロセスを大事にしましょう。失敗はOK！チャレンジしないと失敗しません。チャレンジが尊いのです。どんどんチャレンジさせましょう。
- 好きなことに夢中になれる環境を準備することが教師の一つの仕事です。
- 学びの機会の保障と、新しい時代の学びを体験させることは必須です。

※ 失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる

2 本年度の柱

(2) 子どもも学校経営に参画について

～子どもが「自分が創った」と言える学校行事をめざしたいです～

- ・最初は、教師もエネルギーがいります。時間の確保も大変です。しかし、積み重ねていけば、必ず子どもの力でできるようになります。3年ぐらいかけて確立していけたらよいと思います。
- ・失敗してもよいし、稚拙なものであってもよいです。子ども自身がやったことが価値があります。
- ・何の行事のどの部分を任せるのか、各行事のリーダー（先生のこと）が計画し、提案してほしいです。そのための情報収集や研究をどんどんしてほしいです。

2 本年度の柱

(2) 子どもも学校経営に参画について

- スクールプランの児童版、保護者版を作ります。日々、意識させ、振り返らせてほしいです。
- 子ども自身が目標達成のため意識して学校生活を送ることが、一番の学校経営参画です。
- 「あなたの学校の自慢は何ですか？」の問いに、「自分たちで行事を創ったり、進んで委員会活動をしたたりするところです。」と児童が答える学校にしましょう。

2 本年度の柱

(3) コミュニティスクールについて

- 本校の実態 地域、保護者が協力的であるという特長を最大限生かせる良い仕組みです。
- 子どもを不審者から守るために、門戸を閉ざすのではなく、逆に門戸を開き、子どもを守ってくれる人材が常に学校におり、有事の際、すぐに対応してくれるというイメージです。
- 地域の方に、コミュニティの場、散歩コースとして学校をお使いいただき、いっしょに花壇を整備する。いっしょにベンチに座って本を読む、お話をする、時にはいっしょに遊ぶなどの光景が見られるようになればと思っています。
- 職員の手が足りないときは、スクールヘルパーと合わせて、地域の方を活用していけたらと思っています。

2 本年度の柱

(3) コミュニティスクールについて

【本校の児童の実態】

- 運動場で遊ぶ子どもが多い 図書館開館時には結構人数が来る
- この実態（強み）を生かせる取組を模索
- 本校コミュニティスクールのキーワードを「すこやか」にしてはどうかと、学校運営協議会で具申するつもりです。

【具体的な取組】

- 赤ペン隊（仮称）
- いやしカフェ

3 星ヶ丘小の業務改善

- 1 個々の力量アップ（前掲）
- 2 本気の定時退校日
 - ・ 計画的な業務遂行
 - ・ 生徒指導を起こさない
- 3 教師がやりすぎない 子どもに任せることに慣れる
- 4 人の財産を使う 学年、教科等のストックファイル
- 5 健康に留意

4 おわりに

- 子どもを幸せにすることが私たち教師の仕事です。
- 子どもの表情、変化にビビッドになりましょう。
- 「愛着」と「敬意」（星ヶ丘の子は、すべて私たちの大切な子です。しっかりかわいがりましょう。そして、大人は信頼できる、さすが大人と言われる言動を心がけましょう。）
- 日頃往生 よいことこそ、保護者とたくさん共有をしましょう。
- くじら食堂、地域行事等 先生方にお知らせします。学校外の子どもの姿が見られるし、保護者とも、より懇意になれます。